

加圧600トンプレス機導入

伊吹機械、来年2月稼働

車部品金型 試作能力底上げ

【大津】伊吹機械(滋賀県長

浜市、伊吹宏一社長、0749・
78・0344)は、加圧能力6

00トンのプレス機を導入して2
019年2月に稼働する。自動

車部品金型などの試験に使う。
特殊鋼を使った試し打ちに対応

するなど金型を試作する能力を
底上げし、主力である車部品金

型の受注を拡大する。加圧能力

は同社が持つプレス機として最

大。総投資額は1億3000万
円。24年3月期の売上高を現状

比約60%増の5億円に高める。

伊吹機械が導入する

プレス機はモーター

を動力源にフライホイ

ールと呼ばれる回転部

品などを使って装置を

動かす機械式。車のシ

ート関連部品などに使

われる、厚板に対する



新規プレス機を導入す
る本社工場

板(ハイテン)の試し
打ちにも対応する。

本社工場に5台の
プレス機として設置す

る。従来は加圧能力3
50トンのプレス機が最

大能力だったが、老朽
化が進んでいた。加圧

能力が高い試作用プレ
ス機をそろえて、金型
の納期を短縮する狙い

もある。

同社は車部品向けが
主力のプレス用金型メ
カ。18年3月期の

金型の試し打ちに活用
する。また、車部品材
料への採用が進む、軽く
て衝撃に強い高張力鋼
板(ハイテン)の試し打ちに
対応する。

万円。このうち7割が
車部品向け。残り3割
は住宅部材やスチール
家具向け。今後は設備
投資と合わせて人員増
強も進め、5年後には
従業員を現在より6人
増の25人程度に拡充す
る考えだ。